


回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金 [午前] 8:30~12:00 [午後] 13:00~17:00
- 火・土 [午前] 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科 他
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション
- 訪問看護ステーション

医療法人 地塩会 **南国中央病院**
 南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



広告


最後になりましたが、利用者さまが住み慣れた地域でその人らしく最後まで自宅で過ごしていただけるよう、これからもスタッフ全員で精いっぱいサポートさせていただきます。

「三七七医療ウォッチ」通所リハビリテーション 当事業所の特徴

当事業所では、短時間リハビリ特化型デイケアを提供しています。一般的なデイケアとの違いは、食事入浴サービスがなく、リハビリを集中的に行い、2~4時間の滞在で自宅に帰るという点です。通院でのリハビリを思い浮かべてもらうとイメージしやすいかと思います。

退院後、住み慣れた自宅に帰っても思うように体が動かずこけてしまったり、外出することがしんどくなってしまう場合があります。このような状況を解決するためには、退院直後より集中的なリハビリを継続して行くことが大切であると考えています。当事業所では、ご本人およびご家族さまと連携を図り、再び自宅で安心して暮らしていくためには「何が必要なのか？」を考え、解決策を提案しながらリハビリプログラムに反映させていただきます。

また、多数の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を配置することで、個別リハビリ、歩行補助具の選定（つえや歩行器）、器具のチェック、自宅環境に対する助言等幅広く対応することが可能となっています。




南国中央病院 リハビリテーション課
尾中 純大

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金 [午前] 8:30~12:00 [午後] 13:00~17:00
- 火・土 [午前] 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科 他
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション
- 訪問看護ステーション

医療法人 地塩会 **南国中央病院**
 南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



広告

また、超音波検査だけでなく検査はできるだけ同じ医療機関で受診することをお勧めします。前回の検査と比較したり、血液検査の結果の推移を見ることで、病気のサインに早く気付くことができます。かかりつけ医での定期的な検査をお勧めします。

「三七七医療ウォッチ」超音波（エコー）検査で分かること

超音波検査には心エコー、腹部エコー、頸（けい）動脈エコー、下肢動脈エコー、下肢静脈エコーなどがあります。今回は心エコーと腹部エコーについてお話ししたいと思います。超音波検査は高周波の超音波を使って、体内の臓器を観察していく検査です。超音波検査は胸部エックス線写真やコンピュータ断層撮影（CT）検査のように被ばくの心配がなく、また痛みもありません。

心臓の超音波検査では、心臓の大きさ、心筋の動き、弁の状態を観察し、心筋梗塞や心肥大、弁膜症、心不全の程度が分かります。足のむくみ、息切れ、動悸（どうき）などの症状がある場合、その症状が心臓からきている症状なのかどうかを見極める参考となります。また健診の胸部エックス線写真で心臓が大きくなったと心電図異常があるときに、心臓の検査を行います。

腹部超音波検査では肝臓、腎臓、膵臓（すいぞう）、胆のう、膀胱（ぼうこう）、前立腺などを観察します。このう、前立腺や脂肪肝、胆石、胆のう炎、胆のうポリープ、膵炎などが分かります。おなかの痛みなどの症状があるときや、血液検査で異常が見つかったときなどに検査を行います。

また、超音波検査だけでなく検査はできるだけ同じ医療機関で受診することをお勧めします。前回の検査と比較したり、血液検査の結果の推移を見ることで、病気のサインに早く気付くことができます。かかりつけ医での定期的な検査をお勧めします。




南国中央病院 検査課
渡辺 美佳さん

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金 [午前] 8:30~12:00 [午後] 13:00~17:00
- 火・土 [午前] 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科 他
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション
- 訪問看護ステーション

医療法人 地塩会 **南国中央病院**
 南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001




広告

訪問リハビリは、病院・老人保健施設・介護医療院から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が利用者の居室を訪問し、心身の機能の維持・回復、日常生活の自立を目指し、リハビリを行うサービスです。また、介護を行う利用者家族に対して介護方法のアドバイス、福祉用具の選定・住宅改修の提案なども行います。その他に、活動的な生活の獲得を目指し、買い物やバスへの乗降、畑作業など屋外での活動も訪問リハビリで実施しております。幅広いサービス提供が可能な訪問リハビリですが、退院直後の方にもお薦めのサービスです。退院から1カ月を生活混乱期と呼び、この時期が最も身体が衰えやすいといわれています。退院直後、生活の場が病院から自宅へ変わり、転倒を恐れて動けない、段差や不整地の移動が不安で外に出られないなど、心理的・環境的な要因により、動く機会が少なくなる場合があります。この生活が定着してしまうと身体が衰えてしまう機会が多い生活の定着を目的に、実際の生活環境で動作の練習が行える訪問リハビリは有効であると考えております。

1週間に6回（120分）までサービスの提供ができる訪問リハビリですが、2021（令和3）年の介護報酬改定にて退院後3カ月以内の限り、週12回（240分）まで提供が可能となります。ぜひ、退院直後、短期間の訪問リハビリを検討してみたいかがでしょうか。

「三七七医療ウォッチ」訪問リハビリテーションにできること

訪問リハビリは、病院・老人保健施設・介護医療院から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が利用者の居室を訪問し、心身の機能の維持・回復、日常生活の自立を目指し、リハビリを行うサービスです。また、介護を行う利用者家族に対して介護方法のアドバイス、福祉用具の選定・住宅改修の提案なども行います。その他に、活動的な生活の獲得を目指し、買い物やバスへの乗降、畑作業など屋外での活動も訪問リハビリで実施しております。幅広いサービス提供が可能な訪問リハビリですが、退院直後の方にもお薦めのサービスです。退院から1カ月を生活混乱期と呼び、この時期が最も身体が衰えやすいといわれています。退院直後、生活の場が病院から自宅へ変わり、転倒を恐れて動けない、段差や不整地の移動が不安で外に出られないなど、心理的・環境的な要因により、動く機会が少なくなる場合があります。この生活が定着してしまうと身体が衰えてしまう機会が多い生活の定着を目的に、実際の生活環境で動作の練習が行える訪問リハビリは有効であると考えております。



南国中央病院
訪問リハビリテーション事業所
主任 倉持 裕之 理学療法士

回復期リハビリテーション病棟有

●診療時間/月・水・木・金(午前) 8:30~12:00
[午後]13:00~17:00
火・土 [午前] 8:30~12:00

●休診日/日曜・祝日・年末年始 他

●診療科目/内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科 他
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション
訪問看護ステーション

南国中央病院
南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001

「三七七医療ウォッチ」

当事業所での作業療法士の取り組み

西岡 正人さん

作業療法とは生活を送る上で家事、仕事、趣味等全ての活動において何らかの問題が生じた場合に医師から指示を受け開始できるリハビリテーションです。

当事業所(デイケア)では、リハビリスタッフが多数在籍しており、個別で集中的にリハビリテーションを実施できるサービス内容となっています。今回は当事業所の作業療法士が行っている内容を3点紹介いたします。

- 1点目に、まひやけが等で動かしにくくなった腕や手の運動を行い、家事や仕事等で必要となる細かい動きが再びできるようリハビリを行っています。2点目に、十分な手の動きが得られず箸操作や書き字などが困難となった場合に、生活場面で想定した生活補助具の提案や助言を行います。3点目は、生活動作が安定してきた利用者さまに対しては人生の楽しみが増えるよう趣味活動の提案や練習が行えるようにしています。利用者さま個々に応じた生活目標を提案し、目標達成に向け一緒に取り組むよう心掛けています。その他の関わりとして、脳活性化プリントや自主訓練の提案、認知症などの検査、自宅環境の調整や助言等も行っています。最後に、作業療法士として、理学療法士・言語聴覚士と連携し、治療・助言をさせていただきますが困っていることについてより広い視点から評価・治療・助言をさせていただいております。利用者さまが自宅で生き生きとした生活を送り、住み慣れた地域で末永く生活できるよう作業療法士として今後も支援していきます。

回復期リハビリテーション病棟有

●診療時間/月・水・木・金(午前) 8:30~12:00
[午後]13:00~17:00
火・土 [午前] 8:30~12:00

●休診日/日曜・祝日・年末年始 他

●診療科目/内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科 他
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション
訪問看護ステーション

南国中央病院
南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001

「三七七医療ウォッチ」

回復期リハビリテーション病棟における理学療法士の役割

澤田 康平さん

回復期リハビリテーション病棟の目的は、日常生活動作能力を向上して寝たきりを予防し在宅復帰を促進することです。その中で理学療法士は、動作能力の低下が起こっている原因に対して科学的根拠に基づいた治療(筋力訓練、バランス訓練、早期からの立位・歩行訓練など)を集中的に行います。併せて患者さまご家族さまの希望を最大限考慮し、退院後の生活を見据えた治療(寝具からの起き上がりや段差の上り下り、トイレ動作など)を行い、リハビリでできるようになった動作は多職種(作業療法士、言語聴覚士、看護師、栄養士、介護士、社会福祉士)と共有し病棟内の生活にも積極的に取り入れています。

退院前には患者さまや担当ケアマネジャーと共に自宅に訪問する「家屋調査」を行っており、在宅での患者さまの動作を実際に確認し必要に応じた生活環境の調整や福祉用具の導入、退院後の介護サービス利用の提案なども行っています。在宅生活に関わる関係職種に対しては症状や身体の状態、継続すべきリハビリ内容などの情報提供を行い、退院後も適切なリハビリテーションを継続して受けられるよう支援します。

私たち理学療法士は、患者さま一人一人が住み慣れた場所であるかららしい質の高い在宅生活を過ごすことができます。

回復期リハビリテーション病棟有

●診療時間/月・水・木・金(午前) 8:30~12:00
[午後]13:00~17:00
火・土 [午前] 8:30~12:00

●休診日/日曜・祝日・年末年始 他

●診療科目/内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科 他
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション
訪問看護ステーション

南国中央病院
南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001

「三七七医療ウォッチ」

回復期リハビリテーション病棟の作業療法とは

沖 未栄さん

作業療法とは「人々の健康と幸福を促進するために、医療、保険、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と定義されています。

作業療法士は、病気やけが等の要因で日常生活に支障が出た患者さまが、その人らしく生活ができるようリハビリを提供します。内容は、寝返りや起き上がり、立ち座り等の基本的な動作練習や、日常生活で行われる食事やトイレ、更衣等の生活動作の練習、家事動作や就労、地域活動への参加に必要な動作練習など幅広い分野でリハビリを実施しています。


私は、回復期リハビリテーション病棟で勤務していますが、個々の患者さまにより回復過程が違い、また、退院後の生活環境も異なります。そのため患者さまやご家族さまの希望を考慮しながら多職種と連携を取り、個々の患者さまに応じたリハビリプログラムを実施するよう努めています。

退院後の生活に不安がある方や、継続してリハビリが必要な方は、外来リハビリや通所リハビリ、訪問リハビリ等患者さまの生活状況や身体状況に合わせて退院後も継続したケアができるように提案いたします。退院後のリハビリテーション継続によって復職や趣味活動等の入院中にはできなかったことが可能となる方もいますので入院中だけでなく退院後もより質の高い生活が送れるよう支援していきます。

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金 [午前] 8:30~12:00 [午後] 13:00~17:00
- 火・土 [午前] 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科 他
- 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護ステーション

南国中央病院
南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



「いち医療ウオッチ」訪問リハビリで言語聴覚士が行っていること

訪問リハビリでは、専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)がご自宅を訪問し、生活環境を踏まえ、生活動作の問題点に対するリハビリを実施します。今回は、言語聴覚士が訪問リハビリで行っている内容を「紹介したい」と思っています。

最初に、当事業所では進行性神経変性疾患(パーキンソン病など)や中枢神経疾患を起因とした嚥下(えんげ)障害を有している方の依頼が多いです。これらの疾患では、声の出しにくさ、しゃべりにくさ、しゃべりにくさなど、声の出しにくさ・しゃべりにくさに対しては、正しく発音するために必要な口や舌に対するストレッチや筋力運動の他、声の大きさや声質の改善を目的とした呼吸・発声・発話運動を行っています。また、治療中に用いる言葉なども、その方の能力や性格・趣味等も踏まえて設定し、楽しく行えるよう心掛けています。


次に、のみ込みにくさに対しては嚥下能力を評価し、ご本人やご家族に適切な食形態・姿勢について提案しています。さらに、口・舌・のど等の嚥下に関わる器官の筋力運動や、身体ゆがみを修正し筋肉の硬さを取り除くことで、その方ののみ込み力を十分に引き出せるよう取り組んでいます。のみ込む力をつけることで、誤嚥性肺炎を予防するだけでなく、低栄養・脱水を改善し生活の質を向上させることができます。

これからも、利用者さまが自宅でその人らしく生きがいを持って生活できるような支援を提供してまいります。

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金 [午前] 8:30~12:00 [午後] 13:00~17:00
- 火・土 [午前] 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科 他
- 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護ステーション

南国中央病院
南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



「いち医療ウオッチ」口の中を健康に保つ大切さ

口の機能には、「かんで味わう」のみ込む「呼吸する」「話す」「表情をつくる」などがあります。これらの機能は食べること、コミュニケーションを取ることも重要な役割を果たしています。加齢とともに口の機能が衰えると、食欲が低下し十分な栄養がとれなくなり、栄養不足の状態が続くと運動機能・免疫力の低下につながります。

特に高齢者はこういう理由で低栄養が問題となります。それを予防するためには口の中を清潔に保ち、歯の喪失を防ぐことや、口の機能の衰えを早期に見つけることが重要になります。具体的には、「口の中が乾燥する」「味覚が変化する」「硬いものがかみにくい」「お茶や汁物でむせる」などの症状を見逃さないことです。


口の中の汚れや細菌を減らすことは、口の細菌が肺に入ることで起こる誤嚥(えん)性肺炎の予防につながります。そして、よくかんで食べることは脳に刺激を与え、認知症の予防にもつながります。このように口の中がきれいに保たれ、口の機能を向上・改善し、しっかりと栄養を取るとは、全身疾患の予防にもつながります。

食べる楽しみ、人とのコミュニケーションは、身体だけでなく心の健康にもつながります。病院に勤める歯科衛生士として、口の健康を通して入院患者さまが住み慣れた地域に戻り元気に過ごされるための支援をこれからも続けていきたいと思っております。

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金 [午前] 8:30~12:00 [午後] 13:00~17:00
- 火・土 [午前] 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科、整形外科、リハビリテーション科 他
- 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、訪問看護ステーション

南国中央病院
南国市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



「いち医療ウオッチ」生きがいのある生活へ訪問リハビリでの関わり

訪問リハビリでは、利用者さまが生活する上で生じた不安や課題に対して必要となる運動療法の提案、環境調整などを行います。自宅での生活が安定してくると、一歩踏み込んで利用者さまが病前に行っていた家庭内での役割や趣味活動を再開できるような具体策をご提案するようにしています。

利用者さまが自分らしく生活していくためには役割や趣味活動を継続して行えることが大切であると当事業所では考えています。これらを再開することで生活に対する不安の解消や生活課題の達成だけでなく、生きがいを持って生活することができそうです。これにより、①利用者さまの外出する機会が増える②外出することで人に会う機会も多くなる③人に会う機会が増えることで身だしなみにも気を付けるなどさまざまな相乗効果が期待できます。


医療機関で病氣療養し自宅に戻った後、病前と同じような役割や趣味活動を再開できない場合もあります。当事業所では、「どうやったらできるか?」を常に考えて具体的な提案をさし、違うやり方でも再開できるような心掛けています。

当事業所では、利用者さまが「住み慣れた地域で生きがいを持って生活を続ける」という、当たり前のように、難しい課題をクリアしているよう、職員丸となって挑戦していきます。

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金【午前】 8:30~12:00
【午後】 13:00~17:00
火・土 【午前】 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科 他
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション
訪問看護ステーション

南国中央病院
南州市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



南国中央病院

「三つ」医療ウォッチ


**訪問看護師は、他職種
の懸け橋にもなります**

「三つ」医療ウォッチ

訪問看護師の本来の仕事は、かかりつけ医からの指示の下、おうちへ何って医療行為を行うのですが、他にも大切な役割があります。病状に変化があれば、受診のときにうまく先生に話せない方に代わって、電話や手紙で報告します。検査データをもらってきて、「先生から説明は聞いたけどいまいち分からなかった」と言われたときには、再度説明し、食事指導を行うこともあります。定期的に訪問している、何げない会話から、利用者さまの望みを聞くことがあり、介護保険のことはケアマネジャーへ、動作で困っていることがあればリハビリ職員へ、通所を利用していただければ、通所の職員とコミュニケーションを取ります。今までもいろいろな専門職員が、知識や発想をディスカッションすることで、利用者さま、ご家族の望みをかなえる事を実現してきました。

いつか来るだろうといわれる南海トラフ地震。訪問看護師は、医療の知識を持ちながら、地域の特性を知り、利用者さまの取り巻く環境を知っているため、混乱している状況にでも対応できると考えています。災害対策の準備とともに、他職種と話し合える関係を築き、利用者さま、ご家族を支援してまいります。

広告




医療法人地塩会
訪問看護ステーション
なんごく
所長 豊永 三奈さん

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金【午前】 8:30~12:00
【午後】 13:00~17:00
火・土 【午前】 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科 他
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション
訪問看護ステーション

南国中央病院
南州市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



南国中央病院


「三つ」医療ウォッチ

**生活期
リハビリテーション**

「三つ」医療ウォッチ

生活期リハを手厚く展開することで今まで以上に地域に根差した病院としての責務を果たせるのではないかと私は考えています。

広告



南国中央病院
リハビリテーション課
課長 長田 陽介さん


「三つ」医療ウォッチ

この、「自宅（地域）で行うリハビリ」が生活期リハに当たり、今後ますます重要視されていく分野になると思います。

当院ではここ数年、介護保険を利用して通所・訪問リハに力を注いでおり、充実した職員数を配置し生活期リハを提供してまいります。また、昨年度より関連施設に当たる有料老人ホーム併設のデイサービスにリハ職員を常時1人以上配置し、充実した個別リハを提供できる体制を整えました。

生活期リハを手厚く展開することで今まで以上に地域に根差した病院としての責務を果たせるのではないかと私は考えています。

広告




南国中央病院
リハビリテーション課
課長 長田 陽介さん

回復期リハビリテーション病棟有

- 診療時間 / 月・水・木・金【午前】 8:30~12:00
【午後】 13:00~17:00
火・土 【午前】 8:30~12:00
- 休診日 / 日曜・祝日・年末年始 他
- 診療科目 / 内科、消化器内科、循環器内科
整形外科、リハビリテーション科 他
通所リハビリテーション
訪問リハビリテーション
訪問看護ステーション

南国中央病院
南州市後免町3-1-27 TEL.088-864-0001



南国中央病院


「三つ」医療ウォッチ

**患者さまが望む
生活のために**

「三つ」医療ウォッチ

この2人の患者さまは家に帰られた方が車椅子、施設に入られた方はご自分で歩行が可能な方でした。自宅環境や社会的要素で困難な場合もありますが、ご本人の帰りたいたい希望に可能な限り寄り添い、後悔のない選択ができるよう地域連携室として院内・院外にも発信していきたいと思っております。

広告




南国中央病院 地域連携室
係長兼室長代行
畔地 雄大さん

「三つ」医療ウォッチ

当院の地域連携室では患者さまの受け入れを行い、退院後にご本人が望む生活をするために必要なことや、やりたいこと、どのようなフロアが必要かを、ご家族やケアマネジャー等と相談しながら調整をしています。

その中で、番中心に考えるべきことは、「患者さま本人がどのような生活を送りたいか」であると考えています。われわれ医療従事者を含め、知識を備えてしまうと、前のように動けないから家での生活が難しい、ご家族が近くにいないから一人暮らしは無理と、先入観を持ってしまいがちです。しかし世の中には車椅子で自宅生活をしている方もいれば、寝たきりで一人暮らしをされている方もいます。後日その方とお会いしたときに「家に帰れてよかった。なんとか生活できています」という声を聞くことができます。また、その一方で自宅退院を諦めて施設に入所された方からは、「あの時に2回でも家に帰っておけばよかった」と後悔の声が開かれることもあります。

広告



南国中央病院 地域連携室
係長兼室長代行
畔地 雄大さん